

日刊木材新聞

発行所 日刊木材新聞社
〒135-0041 東京都江東区冬木23-4
編集・営業 ☎03-3820-3500
FAX03-3820-3519
総務・販売 ☎03-3820-3511
FAX03-3820-3518
http://www.n-mokuzai.com/
eメール info@n-mokuzai.com
購読料 1ヵ月 6,200円

©日刊木材新聞社 2015
本紙の無断複製(コピー・PDF)配布は、著作権の侵害にあたり違法です。

木材業界の
羅針盤で
ありたい
1945年創刊



木材建材ウィワリー
Japan Lumber Reports

空間提案に踏み込んだ商い展開

古材ギャラリーを開設

丸 嘉

丸嘉(京都市、小畑隆正社長)はこのほど、本社内に京町屋や古民家の古材を使用したショールーム「古材ギャラリー」を開設した。今後は古材販売に加え、古材を活用した空間提案にも取り組んでいく。

丸嘉は10年ほど前から古材集荷・販売事業を本格化させている。

国内最大級の古材在庫を持ち、店舗内装などを多様な需要にきめ細かい販売と提案を行っている。

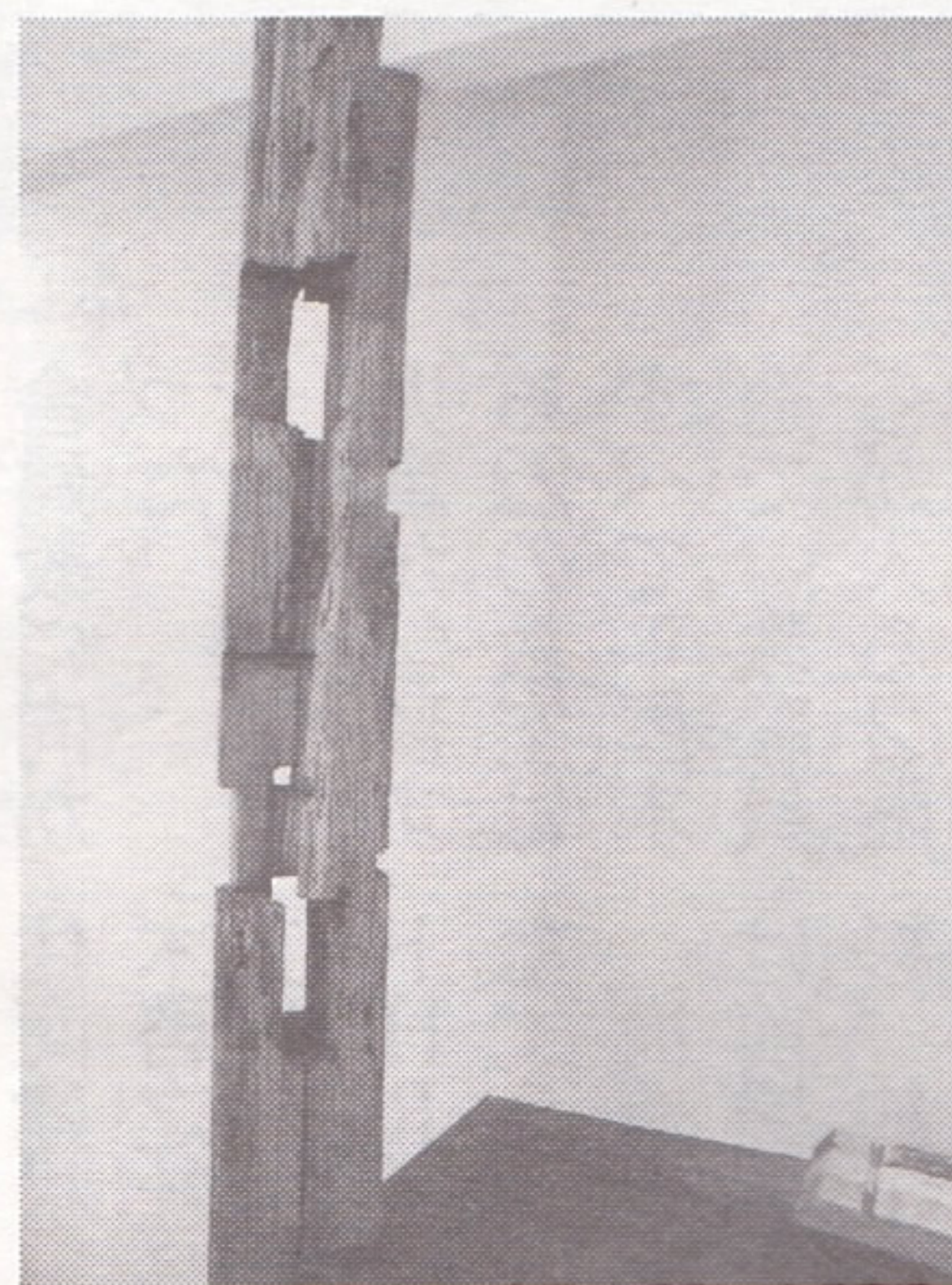
同社は1859年創業の老舗で、現在は地場工務店を主要な販売先に、住宅、店舗向け木質建築資材の販売等に実際に古材の使い



古材を活用した空間提案にも力を入れていく

このほど開設した古材ギャラリーは、同社が10年ほど前から本格的に取り組み始めた古材販売について、施工等に実際に古材の使い

仕口加工で欠損した柱も見せ方次第で味わいがある



社長)と語る。古材ギャラリーには、地松の梁、仕口加工痕が残る柱、カナダから輸入したホワイトオーク外壁

洗浄、釘抜きや古い電気配線の除去、ワイヤーブラシによる研磨などを経て本社倉庫に陳列する。国内仕入れのほか、北米産の鉄道枕木、外壁、牧場囲いなども古材として取り扱う。

方を見てもらうことを主眼とする。古材単品販売にとどまらず、古材を使用した内装空間を見てもらうことで想像力を喚起し、きれいに手入れした古材の新たな価値を理解してもらうことが狙いだ。

「建築材としてまだ価値がある古材を最終処分するのではなく、居場所を変えてさらに使い込む。100年を超え使われ続けてきた古材は天然乾燥して強くなり、まさに今が使い頃だと思う」(小畑

古材の需要はレストラン、飲食店舗内装、雑貨店、京町屋ゲストハウスなど多様で、特に京町屋をイメージしたりノベーションの引き合いが増えているという。古材ギャラリーではそうした施主を対象に、実物を見て、触れることで、施主がイメージする古材の使い方を実体化させていく。同社では今後、納入事例を元に、古材を使った室内空間プロジェクト提案も進めていく考えだ。